

議会への主要事項説明会 説明資料

令和4年2月7日

鶴岡市

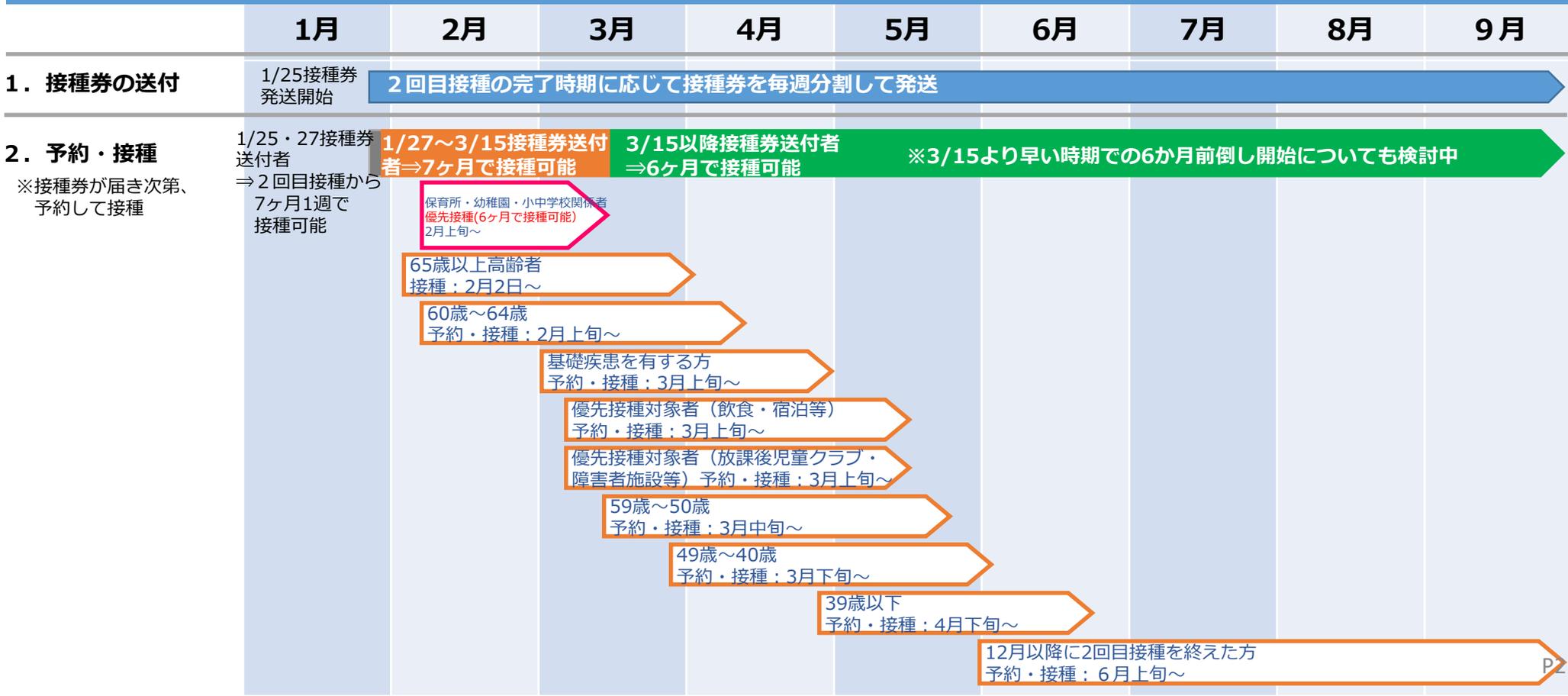
目次

- 1 新型コロナウイルスワクチン接種について . . . P 2
- 2 朝日かたくり温泉「ぼんぼ」について . . . P 4
- 3 酒井家庄内入部 4 0 0 年記念事業について . . . P 7
- 4 S E A D S の運営について . . . P 9
- 5 新産業団地について . . . P11
- 6 加茂水族館改築について . . . P12
- 7 鼠ヶ関 I C 道の駅について . . . P14
- 8 汚泥資源化(コンポスト化)施設の建設について . . . P16
- 9 朝日庁舎改築事業について . . . P17

1 新型コロナウイルスワクチン接種について

追加接種（3回目接種）について、2回目接種から6ヶ月で接種できるように前倒しを進めております。また、保育士、学校関係者等の優先接種を進めております。

●スケジュール



2 朝日かたくり温泉「ぼんぼ」について

朝日かたくり温泉「ぼんぼ」の令和4年度での営業終了について

令和4年1月末に、ぼんぼ管理運営組合より、令和4年度で管理運営業務を終了する旨の届出が市へ提出された

終了理由：コロナ禍で入館者の減少と、燃料費を始めとする諸維持経費の増加により経営が圧迫され、今後大きな改善性は乏しく、累積赤字の解消は困難と判断。

収支状況：資料別添（P6）

1 これまでの経過

- ・平成 5年度 朝日村直営の温泉施設「健康と福祉の里」として開館（社会福祉法人へ業務委託）
※入浴者数は平成7年の15万2,340人がピーク
- ・平成27年度 指定管理者による管理運営
- ・平成28年度 市がぼんぼを閉館する方針を打ち出す。（行政財産の廃止）継続を希望する署名が市に提出
- ・平成29年度 市民の有志「ぼんぼ管理運営組合」が市から光熱水費相当分の支援を受け営業を開始
介護予防事業「通所サービスB（主催：いきいきぼんぼの会）」や百歳体操の会の事業、その他、その他、世代間交流事業「雪ランタンまつり」、健康増進事業「輪投げ」など多数実施

2 課題

① 介護予防、健康増進事業の継続

「ぼんぼ」を会場に実施されてきた事業が継続できなくなると、高齢者の参加機会が失われることから実施主体を他団体へ引き継ぐために地域の団体等と協議しながら事業を試行

② 公共交通の維持

公共交通利用者の減少が懸念。

③ 営業終了後の施設管理

・その他

施設維持に係る経費の増高 ※平成5年建設で築29年

※これまでの主な修繕 【市】

【ぼんぼ管理運営組合】

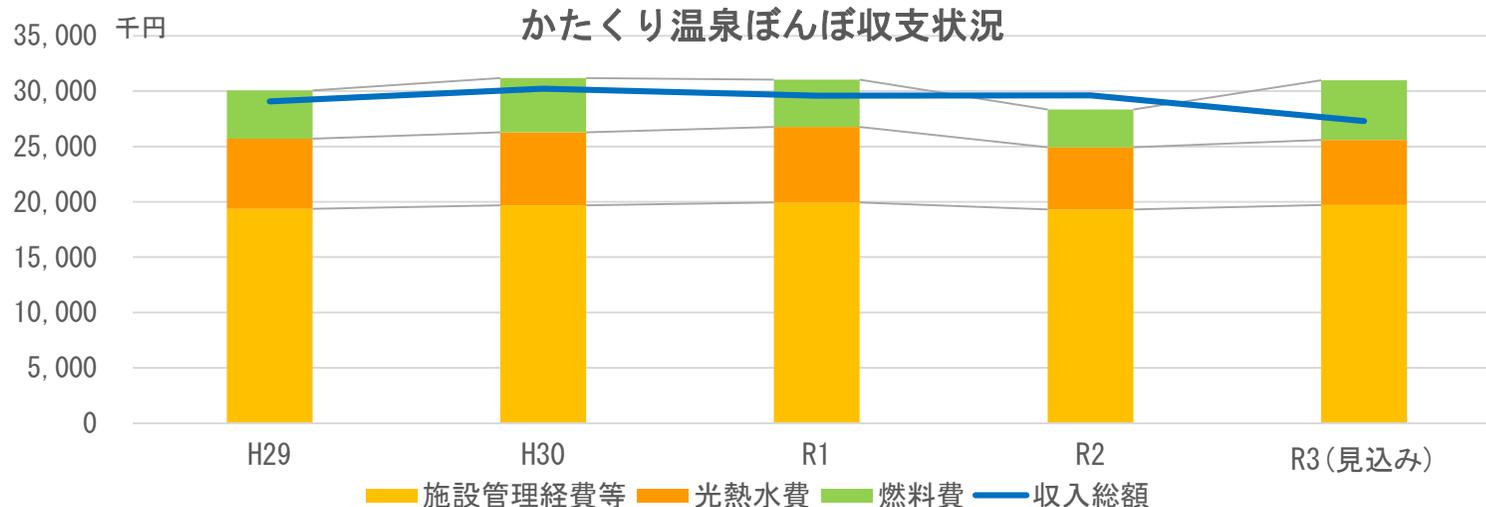
・H15年度	浴室天井修繕	7,077千円
	レジオネラ菌対策設備改設	6,093千円
・H16年度	揚湯管入替	4,410千円
・H18年度	浴室・機械設備大規模改修	47,775千円
・R2年度	源泉揚湯ポンプ交換（3年毎）	2,321千円
・R3年度	源泉井揚湯設備修繕（見込み）	1,650千円

毎年の修繕費	約140万円～170万円
例) サウナストーブ交換	489千円
サウナヒーター修繕	302千円
ろ過ポンプ更新	210千円
※他、ボランティア作業により小修繕を実施	

3 令和4年度の対応

令和4年度組合が営業継続できるよう温泉利用者減による収入減、併せて支出増といった状況を踏まえ、委託料を増額して支援したい。

- ① これまで行ってきた介護予防、健康増進事業をこれからも維持していく経費を支援したい。
- ② 令和4年度中に令和5年度以降のバス運行ルート、時間等を検討する。
- ③ 施設活用については、普通財産の貸付け、譲渡先等を検討する。



(金額：単位千円)

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(見込み)
利用人数(人)	56,674	63,301	59,603	41,829	46,000
①収入総額	29,066	30,215	29,595	29,618	27,299
入浴料(室料含む)	19,446	20,807	19,976	14,329	16,629
市からの委託料	6,600	6,600	6,600	※ 10,160	7,300
修繕補助金・寄付金・ 物販手数料・雑収入	3,021	2,808	3,019	5,129	3,300
②支出総額	30,054	31,167	31,038	28,336	30,980
燃料費	4,375	4,885	4,278	3,403	5,400
光熱水費	6,324	6,599	6,820	5,623	5,867
施設管理経費	17,723	18,009	18,772	17,897	18,297
修繕費	1,632	1,675	1,167	1,413	1,416
収支 ①-②	▲987	▲952	▲3,619	1,282	▲3,681

※ R2委託料には
新型コロナウイルス
感染症対策として地
方創生臨時交付金
286万円含む

3 酒井家庄内入部400年記念事業について



〈400年から学ぶ庄内 みんなでつなごう将来〉をキャッチフレーズとして、郷土愛を高めながら城下のまちづくりを進め、歴史と文化の魅力を国内外へ発信します。

①記念式典

- ◆開催日 10月8日⑤
- ◆会場 庄銀タクト鶴岡
- ◆内容 式典、伝統芸能、基調講演
小中学生展示など
- ◆講師 (選定中)

- ◆外部ゲスト(案)
 - 徳川家当主・徳川四天王当主
 - 市友好都市・兄弟都市など
 - ・木古内町／旧藩士の開拓移住
 - ・鹿児島市／戊辰ノ役からの縁
 - ・曾於市 / 戊辰ノ役での敵

③庄内地域ミュージアム25館スタンプラリー

庄内二市三町の文化施設等での入部400年記念展示を巡るスタンプラリーを開催

- ◆会期 4月下旬～11月末

- ◆参加館 鶴岡16、酒田5、庄内2、三川1、遊佐1館

②庄内大祭と連携したにぎわいイベント

- ◆開催日 10月9日⑤
- ◆会場 鶴岡公園疎林広場
- ◆内容 飲食物販、ステージイベント

- ◆庄内大祭
 - 主催 庄内大祭実行委員会
 - 内容 「庄内400年大祭」として開催し、入部行列を再現

④致道博物館と鶴岡公園周辺施設との連携

致道博物館の来館者に向けて、鶴岡公園周辺の文化施設の案内や飲食店などを巡るイベントを開催

- ◆鶴岡公園周辺案内動画・パネル公開 4月
- ◆企画展と連携した公園周辺めぐり 10月

⑤首都圏における誘客の取組

首都圏で、DEGAM・旅行会社や食文化プロモーションと連携した、観光PRを実施

- ◆首都圏「鶴岡を知る講座」 秋頃
- ◆食文化プロモーション連携 7-8月

⑥歴史文化を伝える小冊子の発行、出前講座

小冊子の頒布と出前講座で小中学生の地域学習を促進し、10/8式典で研究成果展示

- ◆小冊子等 初夏発行、夏～秋に出前講座
- ◆地域学習 10/8記念式典で展示

⑦高校生古文書体験・展示製作

高校生が古文書に触れながら、歴史文化を伝える展示を製作し、致道博物館で公開

- ◆古文書体験 秋頃
- ◆歴史と文化を伝える展示製作 秋～冬

他団体等による酒井家庄内入部400年を記念した取組と連携して、記念事業の充実を図ります。

①庄内能楽館 特別公演

城下の嗜みの一つであった、宝生流能楽の特別公演を開催

- ◆開催日 6月14日㊿
- ◆会場 荘銀タクト鶴岡
- ◆出演 宝生和英、野村万作・萬斎ほか
- ◆主催 同実行委員会（事務局 庄内能楽館）

翌日6/15は、小学生対象ワークショップを開催

②致道博物館 記念企画展

4月中旬から12月まで、酒井忠次展など5つの記念企画展を開催

③鶴岡シルク 特別企画展

10月、鶴岡アートフォーラムで、kibiso製品の監修デザイナー・須藤玲子氏の作品展示会を開催

④鶴岡青年会議所にぎわいイベント

10月3連休中、鶴岡公園周辺で、若者や子どもを対象とした、にぎわいイベントを開催

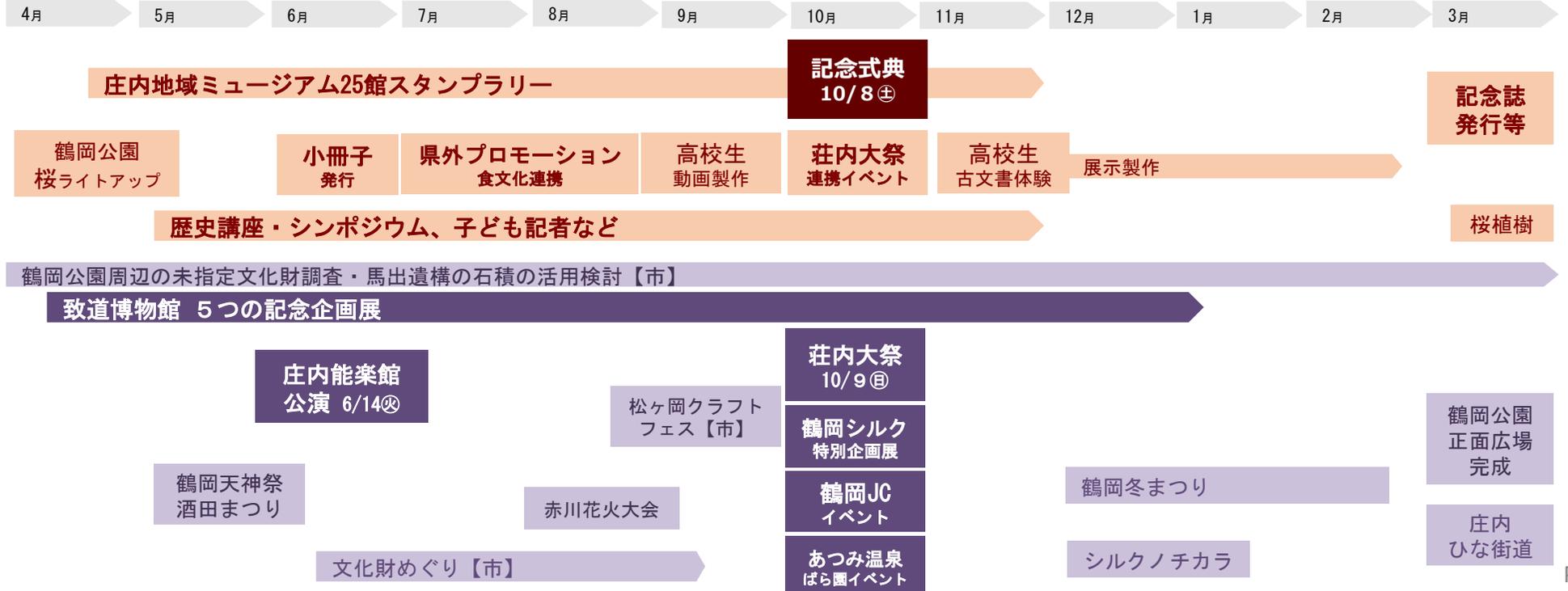
⑤あつみ温泉ばら園イベント

秋、鶴岡公園のバラ移植10年記念と合わせて、講演会やお湯興まつりなどイベントを開催

⑥「馬出」遺構の石積の活用検討

市教育委員会で、県道工事で出土した遺構の石積の活用を検討

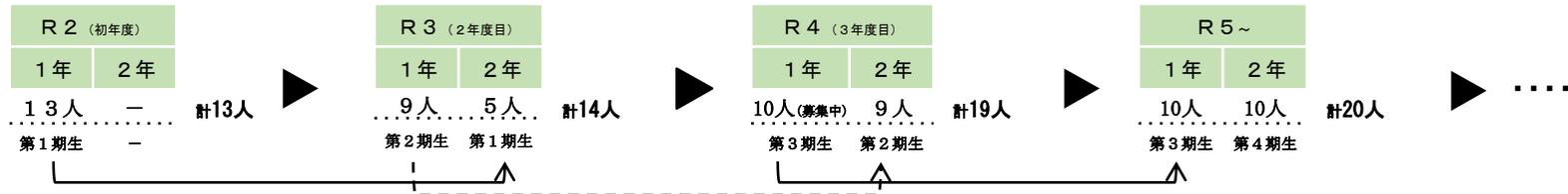
スケジュール



4 SEADSの運営について

1. 研修生の状況等

(1) 研修生数の推移



(2) 第1期生の就農予定

No.	主な品目	備考
1	養鶏、さといも、ミニトマト	独立自営就農済 (R4. 2. 1~)
2	少量多品目野菜	独立自営就農予定 (R4. 4. 1~)
3	ミニトマト、さといも、さつまいも	独立自営就農予定 (R4. 4. 1~)
4	水稻、トマト	雇用就農予定 (R4. 4. 1~)
5	ベビーリーフ、ミニトマト	雇用就農済 (R3. 4. 1~)

※R3は座学のみ受講

(3) 第2期生の状況

9名全員が2年目の研修に進む予定

(うち2名がR4. 4. 1から前倒して親元就農し、座学のみ受講予定)

(4) 第3期生 (R4入校予定) の状況

入校予定者 (2次締切まで) ※3次締切 (~2月10日)

居住地	人数
県内	2人
県外	5人
合計	7人

1名出願中

2 委託業務

(1) 管理運営業務

[R3] 外部委託

- ・カリキュラムの整備
- ・座学研修の運営・調整
- ・実習研修の調整
- ・実習圃場の管理・運営
- ・食事の提供

- ・就農相談
- ・研修生サポート
- ・外部講師謝金支払
- ・校長・アドバイザー謝金支払
- ・研修生への生活指導
- ・施設管理
- ・施設の清掃

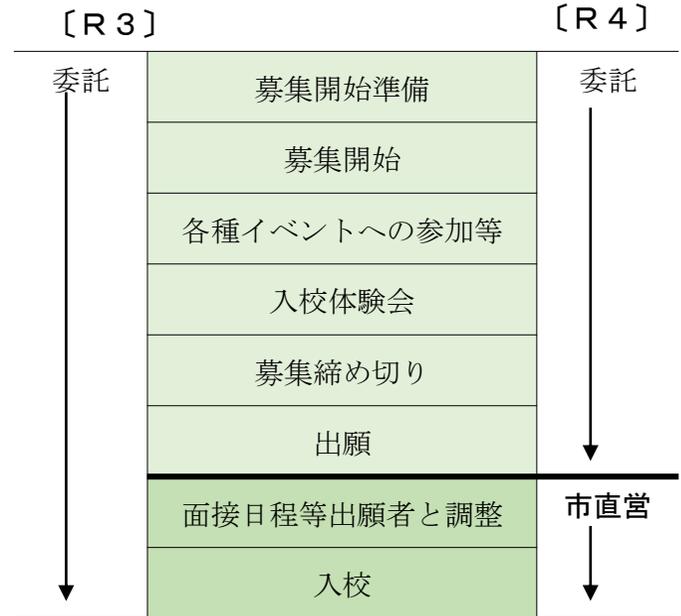
[R4] 外部委託

- ・カリキュラムの整備
- ・座学研修の運営・調整
- ・実習研修の調整
- ・実習圃場の管理・運営
- ・食事の提供

市直営

- ・就農相談
- ・研修生サポート
- ・外部講師謝金支払
- ・校長・アドバイザー雇用
- ・研修生への生活指導
- ・施設管理
- ・施設の清掃

(2) プロモーション



※市民向け学校説明会は市直営

3 指導体制

(1) 実習受入農家

【課題】・曜日を決めて野菜と稲作の2つの経営体での実習は効率が悪い



[R4]

複合経営農家(野菜と水稻)での実習に見直す

4 カリキュラム

【課題】・就農に向けてすぐに活用できる技術の習得強化が求められる



[R4]

SEADS農場での実践を必修カリキュラムとする
春から秋は実習の時間を増やし、冬は座学を中心とした時間配分に見直す

5 新産業団地について

新産業用地の開発に向けた取組状況について

大山工業団地に次ぐ新たな産業用地開発に向け、令和元年度と昨年度に実施した工業用地の需要等の調査状況を踏まえ、今年度、新産業用地開発基本計画の策定を行った上で、最終候補地の選定や開発規模の決定などを進めます。

○事業概要とこれまでの取組

➤ 事業実施の背景

- ・企業立地が進み、分譲可能な工場用地が少なくなっている
- ・市内企業の事業拡大に伴う増設や新規需要に応えるため、新産業団地の開発計画の検討に向けた各種調査を実施

○新産業用地ニーズの追加調査(令和2年度)

➤ 新産業用地ニーズ追加調査の実施内容 (R2. 11~R3. 3)

- ・成長分野の業種で東日本に立地する2,110社へアンケート
(アンケート期間: 令和3年1月12日~27日)
- ・アンケート結果やヒアリングをもとに用地需要を算定

「立地可能性あり」の企業の用地需要推計は約13.3㊦※
(道路等の公共施設を含めた産業団地規模は16.5㊦と推計)
※上記以外にも企業から事業用地の問い合わせ・相談等あり

コロナ禍における立地企業等の用地需要を確認
上記用地需要推計の約8割(10.7㊦)が市内立地企業
⇒事業拡大や建替需要等にあわせた用地の確保が必要

○新産業用地開発基本計画を策定中(令和3年度)

➤ R2調査とR1適地調査を踏まえた開発方針等の検討

立地が予想される業種、雇用者数、工業出荷額、検討候補地(複数)の土地利用計画、造成計画、排水計画、概算費用、事業採算、成果目標などを検討

○令和4年度以降の取組(課題等検討を含む)

(基本計画を踏まえて検討・実施する事項)

- ・開発区域(場所)、面積(上限)の検討・決定
- ・開発手法、開発実施体制の決定
- ・地権者・関係者等への説明・同意、用地測量
- ・企業ニーズ等(取得条件等)の確認
- ・実施設計、第1期工区の決定

(上記決定後、各種手続きに順次着手(R4~R5を想定))

- ①農村産業法に基づく産業導入実施計画の県申請・同意
- ②農振除外申請手続き
- ③農地転用・開発許可などの申請手続き

分譲開始は、今後の協議や手続きの進捗状況、既存工業団地の分譲状況によりますが、企業ニーズにあわせた最短スケジュールでの開発事業を進めていきます

6 加茂水族館改築について

1 目的

クラゲ展示に力を入れる水族館が増えている中、更に多種類のクラゲ展示を行うことで、他の施設との差別化を図るとともにクラゲ解説コーナーやレクチャールームの拡充による体験・学習機能の強化、混雑緩和での満足度向上などを柱に大規模リニューアルに取り組み、入館者数の一層の拡大を目指す。

2 事業概要

研究所棟、エントランス棟、E V棟の増築、本体棟の改修を行う。

(1) 増築工事

- ①研究所棟：延べ床面積 約1,250㎡ 地上3階建て
 - ・1階：レクチャールーム（本体棟から移転、拡張）
体験型イベントの開催や校外学習の受入などクラゲ等の生物について学ぶ施設とする。
 - ・2階：クラゲ展示（新設・拡張）
小水槽やウォーターバスを新設し、多種類のクラゲの展示を行うことで、新たな目玉空間とする。
 - ・3階：クラゲ研究所（本体棟から移転、拡張）
クラゲ飼育の研究を行う実験台や恒温室を設置する。
- ②エントランス棟：延べ床面積 約325㎡ 地上2階建て
 - ・1階：バス待合所、トイレ等（新設）
バス待合所、トイレ等を設置する
 - ・2階：売店、倉庫（本体棟から移転、拡張）
本体棟より売店を移転し、売店スペースの拡張、倉庫を設置する。
- ③E V棟：面積 約20㎡
 - ・エレベーター、風除室を設置（新設）

(2) 改修工事（本体棟の改修）

- ①クラゲ展示：レクチャールーム、繁殖室を含めて改修し、クラゲ展示スペースを拡張する。
 - ②レストラン：売店スペースを含めて改修し、レストランスペースを拡張する
- (3) 外構及び駐車場整備：増築工事に伴い再整備を行う。
(4) 当初計画の総事業費：約15億円
(5) 現時点での総事業費：約18.2億円(概算)

3 基本設計から実施設計における主な変更点

	研究所棟	エントランス棟	アプローチ棟	休憩棟	E V棟
基本設計	1,100㎡	500㎡	300㎡	72㎡	—
実施設計	1,250㎡	325㎡	—	—	20㎡

- ・研究棟の床面積を拡張し、E V棟を新たに建設するが、エントランス棟の床面積を縮小し、アプローチ棟、休憩棟の建設を中止するなどの見直しを行い、床面積を削減している。

4 財源（見込）

加茂水族館振興基金の他、企業版ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディングの活用を見込んでいる。
なお、不足する分については、起債を活用する。

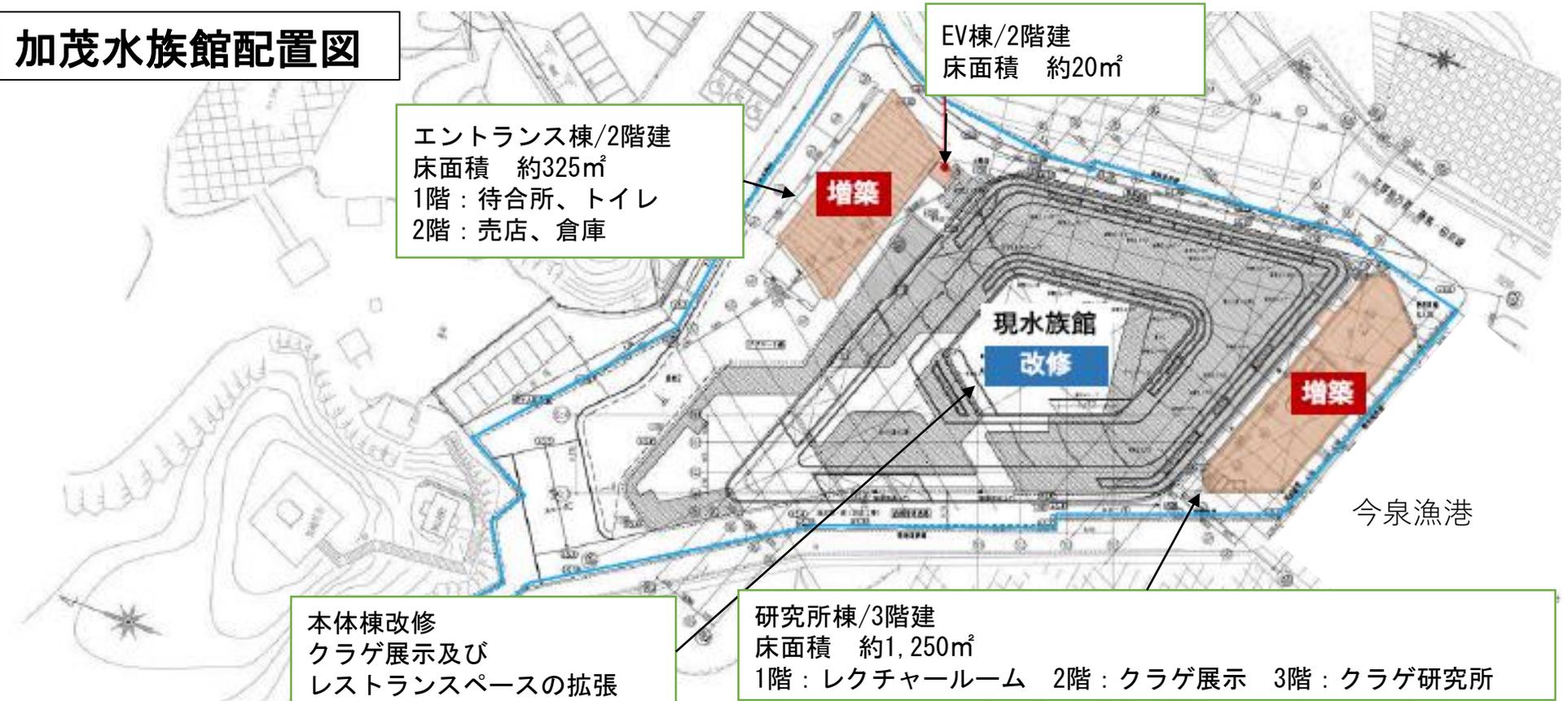
○主な財源内訳（見込）

- ・加茂水族館整備振興基金
13億4,288万2,463円（令和3年3月31日現在）

5 進捗状況と今後のスケジュール

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
基本計画	基本計画						
設計関係		基本設計	実施設計				
増築工事				研究棟・エントランス棟・EV棟			グランドオープン 予定
改修工事					本体棟		

加茂水族館配置図



7 鼠ヶ関 IC道の駅について

鼠ヶ関IC（仮称）への「道の駅あつみ」移転整備について
令和3年度は、官民連携事業の調査検討などを踏まえ、事業手法を決定
令和4年度から、用地取得、事業者募集、広報など、事業推進を図る

○令和3年度 of 取組状況

「官民連携基盤整備推進事業調査」（国補助）の実施

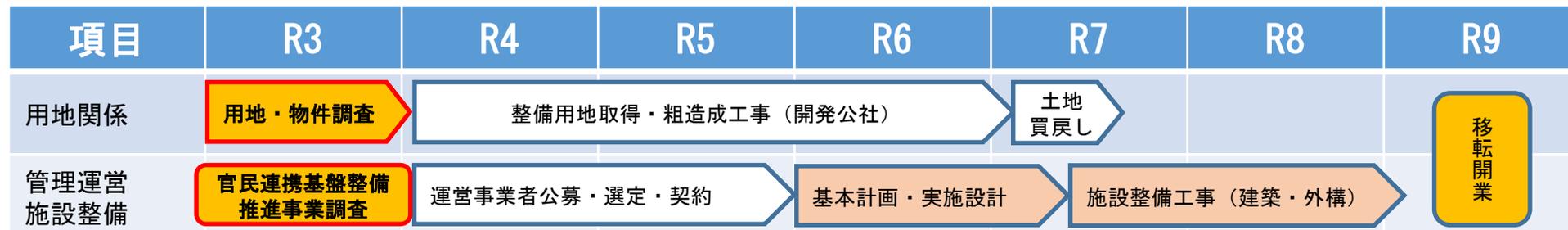
▶需要予測・概略設計

施設規模や具体的な整備内容を検討し、基本計画・概略設計等を策定

▶市場調査

- ・農林水産業、観光・物産関係等42者へヒアリング
- ・道の駅利用者など1,800名へアンケート
- ・運営、建設、金融関係の31者に対し事業実現性を検証

○想定スケジュール



8 汚泥資源化(コンポスト化)施設の建設について

事業概要・目的

<現状>

- 現コンポストセンターは生産開始(S61)から36年が経過、老朽化により維持費が増大、生産能力が低下
- H28よりJA鶴岡に無償貸付し、JA鶴岡で生産・販売をしているが、現在の生産量ではニーズに対応しきれず
- 汚泥産廃処分量が増加、近隣の民間処分先の確保が難しく、汚泥処理コストが増加傾向

<事業目的>

- 自区内処理による汚泥処分の安定化と処理コスト低減・CO2削減
- 汚泥資源の農業利用の拡大による資源循環型社会の形成

<事業概要>※現時点の想定

- R9稼働を目標に鶴岡浄化センター敷地内にペレット化設備を含めた生産規模1,000tのコンポスト化施設を新設
- 官民連携(DB+0方式)による事業化を図る

事業実施スケジュール (予定)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実施方針検討	→						生産開始
事業者選定			→				
設計・工事・維持管理				設計	→	建設工事	稼働

事業規模

	R2実績
汚泥発生量	3,801 t/年
コンポスト化汚泥量	1,194 t/年 (汚泥発生量の31%)
製品量	520 t/年
備考	老朽化により生産量制限

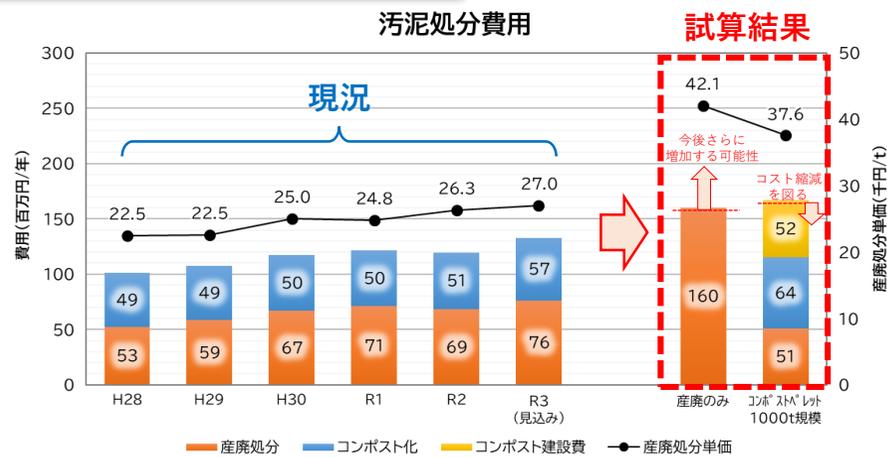
資源化施設案
3,800 t/年
2,450 t/年 (汚泥発生量の65%)
1,000 t/年
ペレット化設備の導入

※生産規模については、拡大が可能か検討

期待される効果

- 汚泥自区内処理の拡大(リスク低減)による下水道事業の安定化
- 汚泥資源を活用した農業生産等の推進による「SDGs未来都市」・「資源循環型社会」の形成

新設による汚泥処分費用の比較



試算条件 (R9~28 (20年間) の平均値を試算) 汚泥量 3,800 t/年・産廃処分単価 42,100 円/t
 *過去10年実績より、単価の上昇率 年2.8% (産廃処分先 庄内地域1,000 t, 内地域2,800 t)

コンポスト施設を廃止し産廃処分のみとした場合、**市外へ資金及び資源(コンポスト)が流出する。**

9 朝日庁舎改築事業について

スケジュール（予定）

令和3年度～令和4年度	基本・実施設計業務
令和3年12月～4年3月	設計者の選定（プロポーザル）
令和4年度	地質調査業務
令和5年度～令和6年度	本体工事
令和6年度（秋頃）	新庁舎供用開始
令和6年度～令和7年度	外構・旧庁舎解体等工事

事業概要

総事業費（概算） 約15億円

施設面積・構造 約1,800㎡

【内訳】

庁舎	約1,400㎡（木造及びRC造）
分署	約400㎡（RC造）

別棟：木質バイオマス棟 約200㎡

庁舎機能の特色

- ・ デジタル技術を活用した過疎対策、中山間振興の実践に取り組むための司令塔機能
- ・ 消防分署との合築による防災拠点施設としての機能
- ・ 木質バイオマスボイラー（チップボイラー）や太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用 等

配置計画図(案)

